

企業の力になる 日商簿記 広告

簿記は経済活動を理解するための言語

「以前から『簿記は重要』だとおっしゃっています。人間は、社会の中で生きていくためには言語が必要で、簿記も経済活動を理解するための言語です。日本語や英語と違って、一つの数字自体に意味があるわけはありませんが、例えば、後払いで販売した売掛金の金額や、借入れた債務の金額は、その会社の財務の状態を表します。簿記は英語よりも世界中で広く使われている共通の言語であり、これからのグローバルな社会で生きていくためにも欠かせないのですが、簿記に馴染みのない方が多いですね。中学や高校で全員が学ぶべきだと思います。」

「簿記は、できるだけ級まで勉強するほうがよい、とおっしゃっていますね。簿記は経済の言語です。英語が話せないと外国の方と話ができないように、簿記を知らずに財務諸表は読めないし、ビジネスモデルは理解できません。利益と現金の違いや、資産が将来は費用になることは、簿記を学ぶことで理解できます。以前、ある企業の財務諸表を見て、『このビジネスモデルで、こんなに儲かるはずがない』と思ったことがあります。将来発生する費用が計上されていないために利益が大きく見えていたのです。簿記を勉強すればこうしたことも見抜けるようになります。」

簿記を勉強するのなら、商業簿記の資格を取るとビジネスの力が変わる



商工会議所検定試験

慶応義塾大学 総合政策学部教授 竹中 平蔵氏



竹中 平蔵 Heizo Takenaka 1951年生まれ。博士(経済学)。一橋大学卒業。ハーバード大学客員准教授、慶応義塾大学総合政策学部教授などを経て01年、小泉内閣の経済財政政策担当大臣。金融担当大臣、総務大臣などを歴任。現在、慶応大学総合政策学部教授、産業競争力会議議員、アカデミーヒルズ理事長、(株)パソナグループ取締役会長などを兼職。

簿記がわかれば経済がわかる

簿記は経済活動を理解するための言語。以前から『簿記は重要』だとおっしゃっています。人間は、社会の中で生きていくためには言語が必要で、簿記も経済活動を理解するための言語です。日本語や英語と違って、一つの数字自体に意味があるわけはありませんが、例えば、後払いで販売した売掛金の金額や、借入れた債務の金額は、その会社の財務の状態を表します。簿記は英語よりも世界中で広く使われている共通の言語であり、これからのグローバルな社会で生きていくためにも欠かせないのですが、簿記に馴染みのない方が多いですね。中学や高校で全員が学ぶべきだと思います。

簿記は、企業活動を適切かつ正確に情報公開するとともに、経営管理能力を身につけるための必須の知識です。社員一人一人が、経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする簿記スキルの習得は、企業力の強化につながります。商工会議所では、経営支援の一環として、企業現場で求められる実践的な人材を育成するとともに、そのスキルを評価・認定する検定試験を実施しています。日商簿記検定は、1954年の開始以来、累計約2500万人が受験しており、時代を問わず多くの企業が社員に求める資格の上位に位置しています。この度は簿記の重要性や活かし方について、自らも簿記の資格を持つ2人、オンラインで2人にお話を聞きました。

簿記は、企業活動を適切かつ正確に情報公開するとともに、経営管理能力を身につけるための必須の知識です。社員一人一人が、経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする簿記スキルの習得は、企業力の強化につながります。商工会議所では、経営支援の一環として、企業現場で求められる実践的な人材を育成するとともに、そのスキルを評価・認定する検定試験を実施しています。日商簿記検定は、1954年の開始以来、累計約2500万人が受験しており、時代を問わず多くの企業が社員に求める資格の上位に位置しています。この度は簿記の重要性や活かし方について、自らも簿記の資格を持つ2人、オンラインで2人にお話を聞きました。

簿記は、企業活動を適切かつ正確に情報公開するとともに、経営管理能力を身につけるための必須の知識です。社員一人一人が、経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする簿記スキルの習得は、企業力の強化につながります。商工会議所では、経営支援の一環として、企業現場で求められる実践的な人材を育成するとともに、そのスキルを評価・認定する検定試験を実施しています。日商簿記検定は、1954年の開始以来、累計約2500万人が受験しており、時代を問わず多くの企業が社員に求める資格の上位に位置しています。この度は簿記の重要性や活かし方について、自らも簿記の資格を持つ2人、オンラインで2人にお話を聞きました。

簿記も勉強しましょう

経済評論家 勝間 和代氏



勝間 和代 Katsuma Kazuyo 1968年生まれ。経済評論家。中央大学ビジネススクール客員教授。早稲田大学ファイナンスMBA。慶応大学商学卒業。当時最年少の19歳で会計士補の資格を取得。大学在学中から監査法人に勤務。アーサー・アンダーセン、マッキンゼー、JPモルガンを経て独立。現在、株式会社監査と分析取締役、内閣府男女共同参画会副議長、国土交通省社会資本整備審議会委員、ウォール・ストリート・ジャーナル「世界の最も注目すべき女性50人」選出。

ビジネスパーソンに簿記は不可欠

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

簿記は女性の活躍を支える

社員の能力を高め、経営力をアップしませんか？

商工会議所の資格が証明します

企業が求める資格、第1位*

世界で通用するビジネススキル

6月試験 申込受付中

日商簿記 (1級~4級)

次回試験日：〔1級~4級〕6月14日(日)、11月15日(日) 〔2級~4級〕2016年2月28日(日)

※リクルートエージェントのホームページ「企業が求める資格ランキングTOP10」から引用

7,000万人*の受験実績を誇る産業界の信頼ブランド

商工会議所検定

商工会議所が実施する検定試験は、全国統一の基準の下で、年間約74万人(2014年度実績)の方々が挑む大規模なもの。年齢や業種を問わず幅広い受験者層の方々が、実社会で活躍するため、また、就職力を高めるためにチャレンジしています。*昭和19年からの累計受験者数

お問い合わせは 日商簿記 検索 <http://www.kentei.ne.jp> 情報ダイヤル 03-5777-8600 受付時間 8:00~22:00(年中無休)

